

# 150年の誇りと未来への挑戦をつなぐ、秋田のインフラ物語。

～「近代インフラ整備」のスタートから今年で150年!～

本県におけるインフラの歴史には、長い物語があります。

天平5年(733)、大和朝廷が最上川流域から秋田高清水に遷した羽柵の建造が、本県における大規模構造物の最初であると言われています。

その後、中世に入ると安東氏による土崎湊(現在の秋田港)や野代湊(同能代港)の整備、各地の領主による築城と城下町づくり、軍用道路の整備などが行われました。

江戸時代においては、幕藩体制の中、久保田藩では普請奉行(土木)や作事奉行(建築)により、街道整備や川筋改修、城館修築などが進められました。

明治4年(1871)の廃藩置県により秋田県が誕生し、その2年後の明治6年(1873)、県庁租税課の中に現在の建設部の前身となる「土木掛」が設けられると、富国強兵・殖産興業のスローガンのもと、県境の各峠における新道開削や、渡し船からの脱却を図るための橋梁の架設、船運のための低水路掘削等の河川整備等、インフラの構築が急ピッチで進められることとなりました。

本県における「近代インフラ整備」の本格的なスタートです。

昭和に入ると、戦時下において計画的な整備が一時困難になる状況もありましたが、戦後は一転し、荒廃した県土の復興が急速に進められました。

木橋から永久橋への架け替え、治水事業の推進、工業用水道の整備、公営住宅の建設に加え、昭和28年(1953)にはガソリン税が道路財源として設定され道路整備が飛躍的に進捗するとともに、空港や港湾整備も進められました。

これらインフラの整備は、「もはや戦後ではない」とうたわれた昭和30年代から40年代にかけての高度経済成長を支える重要な基盤となりました。

本県の骨格となるインフラ整備に邁進した昭和から平成へ移り変わるに従い、これまで整備してきたインフラ施設を将来にわたって引き継いでいくためのメンテナンスや、激甚化・頻発化する自然災害に備えるための県土の強靱化などに重点的に取り組む時代が訪れました。

そして現在、令和という新たな時代の中で、カーボンニュートラル等の世界的な変革期においても、秋田の地の利を最大限に活かした洋上風力発電への取組や、ICTやIoTの活用による建設DX等、新たなステージへの挑戦が求められています。

明治6年(1873)、秋田県庁に「土木掛」が誕生してから150年の節目を迎えた令和5年(2023)の今、本県の持続的な発展と県民の安全・安心のため、引き続きインフラの整備・維持管理に全力で取り組む決意を新たに、これまでの先人の労苦と功績に敬意を払い、ここに150年の歴史を振り返る本リーフレットを刊行いたします。



明治13年 秋田市土手長町に新築した秋田県庁舎(出典:秋田県土木史)

秋田のインフラ50選

## 「未来へ伝えたい 秋田のインフラ50選」

小中学生や保護者などに、県内各地の代表的なインフラ資産(ダム、橋梁、トンネル、農業施設、公的建築物等)をPRし、インフラへの理解と興味を深め、将来的な建設業の担い手確保につなげることを目的に「未来へ伝えたい秋田のインフラ50選」を選定しました。

PR冊子やインフラカード、公式Instagramなどを通じて、県内インフラの魅力を広くPRしながら、小中学校における現場見学会や観光資源と合わせたインフラツーリズムへの活用を目指していきます。

インフラカード(全50箇所:配布中)

8 森吉ダム
秋田のインフラ50選

県が管理する最も古いダム

表面

INFRASTRUCTURE-CARD

所在地 北秋田市森吉字砂子沢下岱

施設概要 秋田県が管理するダムの中で最も古いダム。昭和28年完成。洪水調節と発電を担う。ダム管理事務所及び堤体上部に直接アクセスする道路がなく、昇降設備(インクライン)を設置している珍しいダム。

見どころ 融雪期(春)のダムの放流は迫力あり。ダム湖である「太平湖」には遊覧船が運航しており、湖面からもダムを眺めることができる。

施設管理 秋田県森吉ダム管理事務所  
TEL:0186-76-2448

裏面

公式Instagram

akita\_infra50

フォローお願いします!

【公式】未来へ伝えたい「秋田のインフラ50選」  
秋田県内の厳選した50箇所を紹介!

秋田県民も知らないインフラ情報  
秋田県から発信するインフラ情報  
お子さんにも伝わりやすい解説を用意

ぜひ現場で実物もご覧ください!

撮影したら akita\_infra50 をタグ付け! 11 冊  
www.pref.akita.lg.jp/pages/archives/6954

インフラ50選ホームページ

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/69542>

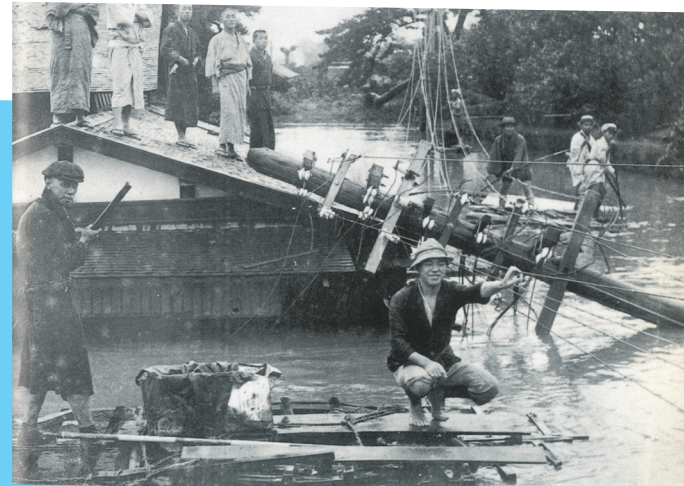
発行: 秋田県建設部・秋田県建設技術協会(事務局: 秋田県建設部内)  
〒010-8570 秋田県秋田市山王4丁目1-1  
TEL: 018-860-2492(R5事務局企画部)

## 明治時代

**藤倉水源地(秋田市: 明治30年代)**  
多額の費用(当時の秋田市年間予算の16倍)を費やし建設された水道施設。明治44年完成。写真は建設中のダム前で記念撮影する工事関係者。



出典: 藤倉水源地ものがたり



秋田市亀ノ町の洪水(明治43年)

出典: 思い出のアルバム秋田市

雄物川放水路ができる以前は、大雨になると植山地区はたびたび洪水被害にみまわれた。植山地区の洪水は通称「植山のけつ冷」といわれた。この写真の明治34年9月の洪水被害は、床上浸水2959戸、床下浸水486戸。

## 大正～昭和前期

**大町二丁目橋開通式(秋田市: 大正11年)**  
二丁目橋は藩政時代からの古い歴史のある橋であるが、秋田県初の永久橋(鉄筋コンクリート橋)として架け替えられ、盛大に開通式が行われた。



出典: 秋田・男鹿・南秋の100年



秋田市大町通り(大正末期)

出典: 秋田・男鹿・南秋の100年

大町三丁目～四丁目方向へ向かって撮影。右手前に秋田銀行本店(現在の赤レンガ郷土館)が見える。

## 戦後復興期～昭和後期



出典: 秋田県史の昭和

**豊川築堤工事(旧飯田川町: 昭和30年頃)**  
河川の堤防整備のため、斜面を切り崩して土砂をトラックで運搬している様子。

山王大通り(秋田市)

都市計画事業により、二丁目橋～山王十字路までの約900mを2車線(12m)から6車線(36m)に拡幅した(昭和46年竣工)。現在は夏の羊燈会場としても活用されている。



## 平成～令和



大館能代空港(北秋田市)

完成直後(平成10年)の様子。愛称は「あきた北空港」。

秋田港へ初寄港する豪華客船

「クイーン・エリザベス」

(秋田市: 平成31年)

平成30年にはクルーズ船のおもてなしの玄関口として「秋田港クルーズターミナル」も完成。



150年の誇りと未来への挑戦をつなぐ、秋田のインフラ物語。

# 秋田県土木掛150年記念版

# THE 土木 インアキタ





